

# キャンパスの樹木

| collection 4 |

メ タ セ コ イ ア



写真中央の一番の高木がメタセコイア、向かってその左がヒマラヤスギ、右の中高木がカイヅカイブキ、左の建物が光塩館、後方は女子大学の図書館

メタセコイアはスギ科メタセコイア属の落葉高木で、別称はアケボノスギ（曙杉）である。三木茂博士により化石から発見されたが、昭和16年にセコイア属と別属と確認され、メタ（後の）セコイアと命名された一属一種の樹木である。同属に樹高世界一を誇る「セコイアデンドロン（ジャイアント・セコイア）」がある。メタセコイアの幹は直立し、高さは30〜40メートル、直径は2〜3メートルにも達する。密に枝分かれし、葉は針葉で対生、樹形は全体に細長い円錐形となり優美である。雌雄同株、3月下旬ごろから花が咲く。春の新緑や秋の紅葉は雄大で美しい。林立すると壮大な大陸的景観をかもし。

この木は「生きた化石」として有名である。その理由は、この木は約100万年前までは北半球の各地で繁茂していたのに、その後絶滅したと考えられていたからである。ところが

1945年に中国四川省の奥地で発見され、世界的注目をあびた。終戦直後アメリカの調査隊が種子を持ち帰り、そこから苗が育てられた。カリフォルニア大学古生物学科のチエイニー教授は1949年、その苗を日本では最初に昭和天皇に献上し、それは皇居に植えられた。続いて翌年2月、博士は日本のメタセコイア保存会あてに100本の苗木を寄贈、それが日本各地の国立大学、植物園、地方自治体などに配布された。その後、それが育成増殖され、現在では全国各地でその姿をよく見かけるようになった。

大学のメタセコイアは今出川キャンパス「光塩館」前庭、女子大学との境界ぎわにあり、威風堂々と屹立している。樹下に来歴を示す石柱があり、そこには「メタセコイヤ樹、校友佐竹宣孝氏寄附 同志社創立七十五周年記念 昭和二十五年十一月二十九日植之」と三方に刻まれている。このことを、『同

志社タイムス』（第16号、同志社校友会）も、「同志社創立七十五周年記念 記念樹にメタセコイア リユニオン盛会裡に終る」の記事中で、この意義深き日を永遠に記念するために校友佐竹宣孝氏の尽力による前世紀の唯一の遺樹メタセコイアを記念樹として学内三ヶ所に植え付けた」と伝えている。また『同志社々報』（同志社大学庶務課）も3ヶ所に植樹と記録しているが、他の2ヶ所のもは確認できない。

ところで、ここに名前のある佐竹宣孝氏は、明治42年同志社普通学校卒、商店経営のかたわら同志社校友会理事として熱心に大学の諸事業を支援した（昭和33年11月逝去）。氏には園芸趣味があり、その関係でメタセコイアを寄贈したものと思われる。ただ残念ながら氏がどのようなルートで入手したかは不明であるが、前述の100本のうちの1本であることには間違いない。ともかくも植物進化の上で貴重なメタ

セコイアが日本に入ってきて1年もたない時期に、わが学園に植樹されたことは喜ばしいことであった。メタセコイアの名とともに佐竹氏の名前も永く母校の歴史に残るであろう。

（元大学社会学部教授 宇治郷毅<sup>うじこうき</sup>）

（参考文献：庶務課「創立第七十五周年記念行事」「同志社々報」第4号 昭和25年12月15日、同志社校友会「記念樹にメタセコイア リユニオン盛会裡に終わる」『同志社タイムス』第16号 昭和25年11月28日、磯田「理事・佐竹宣孝さんと市川善平君」『同志社タイムス』第98号 昭和33年12月28日、三木茂『メタセコイア 生ける化石植物』日本硯物趣味の会 1953年、斉藤清明『メタセコイア 昭和天皇の愛した木』中央公論社 1995年）